

2013年11月12日
テバ製薬株式会社

この資料は、2013年11月8日にテバ本社（イスラエル）が発表したものの邦訳です。
訳に齟齬が生じる場合、原文が優先されます。

一体型ドースカウンター付喘息レスキュー吸入器の

患者さんベネフィットを調査データが補完

2013年11月8日、エルサレム（イスラエル）-テバファーマスーティカル・インダストリーズ・リミテッド（NYSE: TEVA）と AAFA（アメリカの喘息およびアレルギー財団）は、クイック定量噴霧式吸入器（MDI）の設計に関する最近の患者調査結果を発表しました。この調査結果はアメリカのメリーランド州ボルチモアで開催される ACAAI（喘息、アレルギーおよび免疫に関するアメリカの専門大学の会合）（2013年11月7日-11日）で発表されます。

喘息吸入器の設計調査は、喘息患者の吸入器の嗜好や考え方、使用方法を評価するために実施し、590人からの回答が得られました。回答者の48.2%は服用が必要な際に吸入器の薬が空だった経験がありました。そのうち10.4%は治療のために緊急救命室（ER）に行く必要があり、20%は吸入器の処置なしで病院に行かなければなりませんでした。回答者に吸入器のデバイスの機能性を向上させるために必要なことを尋ねたところ、ほとんどの回答者からドースカウンターが必要であるという回答が得られました。

「ドースカウンターの有効性は非常に高いと言えます。患者さんが喘息発作を起こした際に残りの投与回数を確認できることに加えて、投与量のカウンターは全体の喘息コントロールについて患者さんと医師に重要なシグナルを提供することができます」とM.S.Mの渉外担当副社長のMike TringaleはAAFAで述べています。「調査当時、ドースカウンター付の吸入器を使用していたのは、回答者の三分の一のみであり、ドースカウンター付MDIのベネフィットと有用性に関する啓発の必要性が示されました」

会合にて、ドースカウンター付吸入器を実際に使用したときの実測値が追加で発表され、それは呼吸器関連のER訪問発生率の減少と関連付けられました。また、サブ治療および空の吸入器使用の減少にも寄与する可能性が高いと発表されました。データセットは世界最大のヘルスケアデータベースの1つである『the Clinformatics™ Data Mart retrospective claims

data』から、喘息や運動誘発気管支痙攣(EIB)、慢性閉塞性肺疾患(COPD)を持つ4-64歳の患者さんを抽出し、ドースカウンターの有無によって患者集団を2つに分けました。調査により、ドースカウンター有の患者集団は、無の集団と比較して、呼吸器関連でのER訪問の発生率が45%低いと推定されます。

「米国では、毎年約200万人の喘息患者が緊急外来を訪れます」とAAFAの呼吸器設計調査主任研究者であるDr. William Storms(コロラド大学健康科学センター 臨床学教授、コロラド・スプリング・カンパニー William Storms アレルギークリニックの創設者)は述べています。「喘息発作は時を選ばずに生じる可能性があり、患者さんが吸入器に残っている投与回数を知ることがとても重要です。それは潜在的に、発作時のアルブテロールの救命の役割も果たします。もし患者さんが発作時に、自分の吸入器が空である事を認識していない場合、処置の為にERに搬送される可能性とリスクが高まります。これはドースカウンターの重要性を示しています」

AAFA (アメリカの喘息とアレルギーの財団) について

AAFAは、喘息やアレルギーを持つ人々のための主要な患者団体として1953年に設立された非営利組織で、世界で最も歴史を持つ喘息やアレルギーの患者団体です。AAFAは、教育やアドボカシー、研究を通じて喘息やアレルギー疾患を持つ人々の生活の質の向上に取り組んでいます。AAFAは米国を中心に支援団体および他のローカルパートナーのネットワークを通じて人々に実用的な情報やコミュニティベースのサービスとサポートを提供しています。AAFAは、健康啓発を発展させ、より良い医療や治療を提供するために国家と国民の権利擁護の取り組みと研究資金を支援します。詳細は www.aafa.org をご覧ください。